



奉仕しよう みんなの  
人生を豊かにするために

# Shintoshin Weekly

〒160-0023 新宿区西新宿2-7-2 ハイアットリージェンシー 東京11階  
TEL : 03-3340-3555 FAX : 03-3340-3554  
HP : <http://www.tokyo-shintoshin-rc.org> E-mail : shintoshin-rc@par.odn.ne.jp  
会長 小川恵司 幹事 伊豆隆義 創立 : 1988年9月21日

## 「私が近くで見た昭和の政治家」

### 豊田 祥明 会員



昭和35年ころより昭和末までの期間についてお話しします。  
自民党の総裁選びは、かつては党员参加の仕組みは無く、派閥領袖の話し合いや衆参  
国会議員の投票で決まっていた。公職選挙法は適用されず買収を伴う激しい多数派  
工作が繰り広げられました。

各陣営は料亭で会合を開き、対抗馬の陣営を切り崩すため数億円規模の買収工作が  
行われました。

議員に直接働きかける「一本釣り」派閥単位で票の取りまとめを依頼する「トロール船  
団方式」といった言葉が飛び交いました。

現金を2陣営から貰う「ニッカ」3陣営から貰う「サントリー」全陣営から貰って白紙投票する「オールドパー」など、  
ウイスキーになぞらえた隠語も広まりました。

「三角大福」と呼ばれた三木武夫、田中角栄、大平正芳、福田赳夫の4人が出馬した昭和47年総裁選は  
凄まじいもので、世論の批判が高まり金権政治は影を潜めました。

金権スキャンダルで退陣表明した田中角栄の後継を巡り三木武夫、大平正芳、福田赳夫の3人が激しく対立、  
総裁選を一任された椎名悦三郎副総裁は「クリーン」が旗印の三木武夫を指名しました。

中曽根康弘首相の後継を争った総裁選は安倍晋太郎、竹下登、宮沢喜一の3人が立候補し一本化に向け  
た調整が続いたが結論が出ず、中曽根が竹下を後継指名しました。

私は昭和の良き時代だった20数年間、同じ農林関係の組織から出ている2人の参議院全国区選出自民党  
議員に仕えました。最初は重政（参議院副議長、弟は衆議院・農林大臣で河野家の親戚）次に重政の  
後継者梶木（参議院自民党幹事長、環境大臣）

昭和58年第2次中曽根内閣で安倍元総理が父晋太郎の外務大臣就任に伴い、勤務していた神戸製鋼所  
を退職し外務大臣秘書官に就任28歳、ここから安倍さんの政治が始まりました。私は梶木環境大臣秘書官  
48歳でした。

葛城参議院自民党秘書会会長、またOB会会長として強力なリーダーシップの下で微力ながら支えました。

重政の資産で昭和58年 内閣府所管の公益財団法人重政教育財団を設立、日本国内の大学生、  
大学院生へ奨学金給付を行って現在に至っています。

政府もやっと3年前から今までの貸与型に加え、条件付きで一部給付型を始めました。

2021年11月17日（水）第1492回例会

「私が近くで見た昭和の政治家」

豊田 祥明 会員

2021年11月24日（水）第1493回例会

「ローターアクトとは(中級編)」

第2580地区ローターアクト

幹事 金谷 一希 氏